

2.1.13 WG18 国内分科会の概要

WG18 協調システム

Cooperative Systems

担当領域

本 WG は、協調システムのアプリケーションを標準化の対象としている。TC204 WG の関連標準化と連携するほか、現在 WG18 自身で取り組むことになっているワークアイテムは次のとおりである。

- 協調システムアプリケーションのメッセージ、プロトコル、プロファイル
- LDM のコンセプト定義
- ITS アプリケーションの通信プロファイル選択に対する要件
- 世界的見地から見た ITS アプリケーションの分類及び管理
- 協調システムのアーキテクチャに基づく協調型 ITS における役割と責任
- 外部の道路交通関係データを車内で提示するためのデータ交換規格－車載 VMS－
- インフラ管理、制御、ガイダンスアプリケーションのための車両からの情報転送
- 状況に応じた速度規制による交通流最適化

活動状況

- 2009 年 10 月 TC204 総会時、WG18 設立(4つの PWI 承認)
- 2010 年 8 月 WG18 分科会設立
- 2010 年 10 月第 1 回分科会開催
- 2010 年 11 月 TC204 Jeju 島総会時に WG18 会合開催(4つの PWI 承認)
- 2010 年 12 月第 2 回分科会開催

他の標準機関 や WG との関係	(1) 国際 欧州 CENTC278WG16 と一体的な連携をしながら、標準化作業を行っている (2) 国際および国内 協調システムの標準化は多岐に渡り、単独で全ての標準化を行うことはできず、他 WG との連携が重要
各国の取組 と 考え方	(1) 欧州 欧州委員会の Mandate に対応する標準化作業という位置づけであり、標準化エキスパートに対し欧州委員会から標準作成作業や会合参加の費用について Funding を提供するスキームがある。現在まで選任されているエディターは全て欧州人。 (2) 米国 WG18 作業への入力・貢献体制はまだ不明確。
問題点	まだ標準化作業が軌道に乗っているとは言い難い。 ETSI と CEN の担当境界が明確でないことの影響がある 政府レベルの Global Harmonization の動き等とうまく連携させる必要がある
今後の対応	これまで実績や技術蓄積があるアプリケーション（例えば Embedded VMS）、将来必要となるアプリケーションの標準化に力を入れて取り組む必要がある。